

伝え残したい子ども達のあそび場、日本建築の技

野外学習施設「なるせ自然共和国」



渡辺硝子(株)提供



1日に行われた現地見学会で前業市長(写真左)に施設の説明をする渡辺智子さん(写真中央)

耕作放棄地と放棄竹林を活用 みんなで創る大きなお庭が誕生!!

生きるヒントが詰まった里山を、知恵を育てる場所、忙しすぎる子どもたちの心身を解放できる場所に——と、津市河芸町の道の駅「津かわげ」近く、風がよく通る見晴らしの良い丘に、耕作放棄地と放棄竹林を活用した野外学習施設「なるせ自然共和国」が1日(火)、オープンした。広さ約2千坪。人の目の届く安全な場所にある。

手がけたのは津市上弁財町の渡辺硝子(株)。

同社取締役で「なるせ自然共和国」の施設長を務める渡辺智子さん
は、「便利でキレイな生活を追うあまり、草木や虫、土に囲まれた人間らしい暮らしから遠ざかった現代の生活環境が、この先、子どもたちの成長にどんな影響を

及ぼすか心配だった」と話す。
2年ほど前から、荒れた畑や竹林を同社代表の渡辺健治さんや子どもたち、有志の友人らとともに週末に整備してきた。

施設南に広がる竹林帯は昨年、(公財)都市緑化機構と(財)第一生命財団が主催する「緑

の環境プラン大賞ポケット・ガーデン部門」でコミニティ大賞を受賞。

今年春から整備に着手し、「どんぐりの丘」を形成。今後、東屋(あ

ずま)によらずをかけた日除けを作ったり、植樹したり、ベンチや遊歩道など、さまざまなかしヨップを通じて、参加者の子どもたちと一緒に作りしめていく予定だ。

渡辺さんは「左官や茅(かや)葺き、造園

の技術を伝承する場でもありたい。日本建築の伝統を大切に考えている」と言う。

施設のコンセプトは「循環」。①大人の経験と知恵、技術を子どもたちに循環する。②農薬・化学肥料を使用せず、微生物を育てる有機農法と食育による食の循環。③環境技術によるエネルギーの循環。子どもたちには五感を使った自然の中の遊び(凧揚げ、うちわ作り、たき火など)と、自分

たちの体をつくる農業について学んでほしい」と、土づくり、作付け、収穫までの体験教室を準備している。施設内には電気・上下水道のインフラ無しで使える環境配慮型の水洗トイレを設置し、見学することもできる。

この日は、市行政、市議会、地元自治会関係者を招いて見学会が行われた。前業泰幸津市長は「担い手に任せるばかりではない、土地の将来のあり方について考える機会が増えてきたように感じる。里山への今回の関わり方は、発起人の思いと地権者の理解、子どもたちの未来についていくという強い信念もあたたはず。土地問題解決への一つのモデルケースになれば」と期待を寄せ、前途を祝した。

開設を記念して、子どもたちの王国のシンボルツリーとして紅葉が美しい「モミジバフウ」の木が植樹された。

施設はイベント開催日以外、近隣の保育園・幼稚園・こども園・小学校の行事利用は無償で解放する。1日1組限定で施設を貸し切り、利用することができ(有料)。

いずれも事前に予約が必要。問い合わせは渡辺硝子(株) 〓 059(227)7471またはウェブ (<https://narusenooka.com>)。